

## 第2回港区3R推進行動会議議事録（要旨）

平成19年12月10日

### まとめ

- 芝浦でのリユース食器実験の結果を踏まえ、リユース食器を用いたイベントが区内で展開できるように情報を整理する。
- プラスチックの資源回収が本格化を見据え、家庭でのプラスチックごみの容積や重さを調査する実感調査を実施する。

### 1 区挨拶

- 3R推進行動会議が立ち上がって以来1年近くが経過し、一步一步動き始めている。区民、企業の皆様に広めて、息の長い取り組みにしたい。

### 2 報告

#### （1）芝浦運河まつり・リユース食器実験

##### 事務局からの説明

- 10月21日の当日用に用意したリユース貸出し食器は、20センチ平皿4,300枚、22センチ平皿700枚の計5,000枚であった。
- 食器洗浄従事の手数が当初の想定人数より大勢集まり、計画より早く作業を終えることができた。
- 5,000枚用意した食器のうち、実際に使ったのは1,360枚であった。うち貸出センターから貸出した分が581枚、店舗からの貸出が779枚だった。
- 貸出時間は12時頃からの昼どきがピークで、回収時間は13時以降からの昼過ぎがピークであった。
- 参加者アンケートで「リユース食器を知っていましたか？」と尋ねたところ、2割が知っていたと回答、8割が知らなかったと回答した。
- 「リユース食器は初めて利用されますか？」という問いに対しては、39人中34人が初めてと回答した。回答者のうち約90%の人が初めて使ったことになる。利用したことがある人に尋ねたところ、日比谷公園のイベントや、春に行った港区のイベントで使ったという回答であった。
- 「デポジット制度はすぐに理解できましたか？」では、ほとんどの方が「はい」と回答し、コインロッカーと同じ制度だという意見もあった。
- 「デポジットの金額は妥当でしたか？」という問いでは、38人の方が「妥当」と回答した。
- 「リユース食器を使ったイベントをどう思いますか？」という質問に対しては、「煩わしい」という意見が1名から聞かれたが、ほとんど前向きな意見であった。

##### 意見交換

- 持ち帰り容器での販売もかなりあったようなので、今後は出店者間で意思統一し準備をすることが課題だ。

- ・今回利用したリユース食器は廃校になった学校の給食用に使われていたもので、区の持ち物である。皿以外に、箸1,000膳弱がある。
- ・リユース食器を利用したイベントについて区のホームページには載せているが、まだ積極的に押しているという状況ではなく、モデル事業段階といった面がある。
- ・春の雑魚祭りでリユース食器を利用したが、初めてということもあり戸惑うことがあった。今回の運河まつりは、雑魚祭りの経験を踏まえて行ったのでうまくいったのではないか。
- ・利用者だけにアンケートを取るのではなく、裏方をやっている区民にもアンケートを取ってほしかった。裏と表と一緒にやらないといけない。
- ・1回で終わってしまわないようシステムを定着させることが必要だ。
- ・アンケートを通じてほとんどの方が前向きな意見を持っていたことが分かった。地域や自治会の力強さを褒める内容のものもあった。
- ・今後のためにもリユース食器を利用したイベントに必要な人数や費用のほか、区と住民の役割の整理など、経営面の報告もほしい。
- ・食器洗浄器付きの車両を用意する自治体もあるが、整備するために800万円程度かかると聞いた。
- ・食器洗浄車をレンタルすることも出来る。他地区の事例では1日4~5万円程度必要だ。
- ・NPOの中には1皿20円で貸出しを行うところもあり、こうしたところを利用することも考慮してよい。

## (2) みんなと3R ひるどきキャンペーン

### 事務局からの説明

- ・11月20日に六本木でオープニングセレモニーを行ってから、30日までキャンペーンを実施した。この期間でキャンペーン終了というのではなく、この期間は広報期間という位置づけである。
- ・新橋駅前には配布する業者などが多く激戦区であった。配布場所によって配布数が異なったが、12月7日までに132名のサポーター登録があった。
- ・HPにはキャンペーン協力者の紹介や、簡易包装商品を示すひるどき3Rミニカード見本などを載せている。

### 意見交換

- ・ひるどき3Rのカードはキャンペーン協力店である西友が作ったものか。そうでないなら他の店でも使えるのだから、協力店を募ってはどうか。
- ・カードについては神戸での先事例をもとに事務局が作成した。西友では色々なルールが設けられており、本部に確認が必要だった。今回は2週間だけという期限付きだったので、了解を得ることができた。西友以外の店でも本部への相談が必要だと思うが、期間限定でお願いすれば、ハードルは低くなると思われる。
- ・商店会は本部との関係等がないため、前向きに考えてみたい。
- ・商店会からこうしたカードの利用を進めたいと提案頂ければ、区としても協力したい。
- ・レジ袋だけに捕らわれないという意味で、このカードの取り組みは評価できる。この力

- ードをきちんとやっていけば、港区方式として日本初のシステムになるのではないか。
- ・ 日本フランチャイズチェーン協会では杉並区や名古屋の緑区、掛川市で「レジ袋いりませんカード」を実験中である。レジ袋有料化に積極的な地域であり、5%の削減目標を掲げている。
  - ・ レジ袋以外に箸やスプーンも断るよう気をつけている。最近では、コンビニも積極的に取り組んでおり評価できる。
  - ・ 毎年10月にレジ袋辞退率の調査を行っているが、港区ではあまりよい数字ではない。区からもプッシュしてほしい。
  - ・ リユース食器を利用したイベントに関しては区民まつり事務局からも来年は取り組みたいという声が上がっている。4月の段階で出店者に募集をかけるのでその際に示せるように考えてほしい。
  - ・ リユース食器に関しては普及啓発で終わりにせず、どのくらいごみが減ったのかデータで見えるようにするといい。関わった人たちの励みになったり、今後の課題となったりするはずだ。
  - ・ ひるどき3Rキャンペーンでは事業者を区職員が訪問した。何度かやり取りを重ねる中で積極的に協力していただけるようになった。きちんと説明していけば事業者も協力してくれることが分かった。

### 3 意見交換（今後の取り組みについて）

---

#### ごみ資源実感調査（家庭プラスチック調査）・イベント3R

- ・ プラスチックの資源回収が来年10月から本格実施となる。
- ・ プラスチック回収の先行モデル地区を見ると地域によってもバラつきがあるが、目標の半分くらいの協力率となっている。
- ・ 混入物が多かった地域は役所からの指導を行い、残さ率を低下させたい。
- ・ 清掃の現場は現状を危機的と考えており、本格実施の時には相当混乱するとの懸念がある。
- ・ 資源プラ回収では医療ごみが混じっているという現状である。
- ・ 支所が清掃事務所・清掃リサイクル課と協力すれば住民の末端まで広がるのではないか。役所の重みというか、役所から言われれば動くということもある。
- ・ 転入者が増えごみの出し方が悪い。転入手続きの際に、きちんと環境を調べるように伝えるなど、厳しく対応してほしい。
- ・ プラスチックの資源回収が始まることも踏まえ、ごみ資源実感調査を行うこととした。
- ・ 地域で行った芋煮会では、チラシにお椀と箸を持参するよう掲載したのに、手ぶらで来る人が多かったうえ、手ぶらの人が使うためのプラスチック椀と割り箸が用意してあった。区がこれだけ取り組んでいるのにこれでは困る。イベント3Rを重要項目として扱ってほしい。
- ・ 地域でまつりを行ったがリユースカップを使わなかった。ビールメーカーから無料で紙コップが提供されるのに、なぜやらなければいけないのかという声があった。
- ・ 少しずつ、できるところからやっていくしかない。
- ・ リユース食器を用いたイベントの反省会をしたらどうか。

- ・地域イベントのごみの減量について、分別のチラシを作ったり、ノウハウを定着させたりしてはどうか。「港区区民まつり ごみゼロガイドブック」といったものが作ればよい。

#### **4 その他（区からのお知らせ・次回会議の確認など）**

---

- ・ 2月18日（月）川崎にて8団体主催のイベント。行政と区民、事業者の連携などの事例が紹介される。
- ・ 事業系廃棄物の手数料が来年4月から改定される。

次回3R推進行動会議は、2月頃開催予定。実感調査等の進捗を報告する予定。